

都市再生整備計画 事後評価シート
福知山駅周辺地区

平成23年2月

京都府福知山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	福知山市	地区名	福知山駅周辺地区			面積	160ha				
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	3,840百万円	国費率	0.4						
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(都市計画道路1路線、市道3路線)、公園(福知山駅北口公園、福知山駅南口公園)、地域生活基盤施設(二層駐車場、高架下駐車場、高架下駐輪場、情報版、耐震性貯水槽)、高質空間形成施設(緑化施設、シェルター、コミュニティ道路の修景)、高次都市施設(地域交流センター)、土地区画整理事業(福知山駅周辺地区)										
		提案事業	地域創造支援事業(地域交流センター)、まちづくり活動推進事業(駅前通り商店街まちづくり活動、街なか再生の研究活動、環境市民会議まちづくり活動)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	①地域生活基盤施設(平面駐車場)…地域交流センターの付帯施設 ②地域生活基盤施設(高架下駐車場) ③高質空間形成施設(コミュニティ道路の修景) ④高次都市施設(地域交流センター)			①地域交流センターの期間内の完成が困難となったため ②鉄道会社により高架下駐車場が整備されたため ③地域が進めるまちづくりとの調整が困難となったため ④施設内容の見直しにより期間内の完成が困難となったため			①関連する地域交流センター利用者数の指標を削除 ②影響なし ③影響なし ④関連する地域交流センター利用者数の指標を削除				
		提案事業	①まちづくり活動推進事業(駅前通り商店街まちづくり活動) ②まちづくり活動推進事業(街なか再生の研究活動) ③まちづくり活動推進事業(環境市民会議まちづくり活動)			①地元商店街振興組合の自主的なまちづくりが実践されたため ②認定中活との一体的な事業展開を図るため ③地域住民等による自主的な活動が展開されたため			①影響なし ②影響なし ③影響なし				
新たに追加した事業	基幹事業	①道路(市道9路線) ②道路(歩行者専用橋1路線)…福知山城公園にアクセスする歩行者専用橋 ③公園(福知山城公園) ④地域生活基盤施設(福知山下駐車場) ⑤地域生活基盤施設(緑化施設) ⑥地域生活基盤施設(多目的防災広場、防災ポンプ) ⑦高質空間形成施設(モニュメント)			①都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加 ②観光文化拠点としての機能を高めるため事業を追加 ③観光文化拠点としての機能を高めるため事業を追加 ④観光文化拠点としての機能を高めるため事業を追加 ⑤良好な都市景観の形成を図るため緑道等の事業を追加 ⑥安全な市街地環境を創出するため事業を追加 ⑦駅周辺のシンボル性を高めるため事業を追加			①一部が、走行時間短縮に係るが、数値目標は据え置く。 ②福知山城公園来園者数の指標を新たに追加 ③福知山城公園来園者数の指標を新たに追加 ④福知山城公園来園者数の指標を新たに追加 ⑤影響なし ⑥避難地面積の地域間乖離度の指標を新たに追加 ⑦影響なし					
	提案事業	①地域創造支援事業(老朽化施設解体除去・休憩施設拡充)…福知山公園周辺 ②地域創造支援事業(西川・天田川整備) ③地域創造支援事業(白書丸防災施設整備) ④事業活用調査(事業モニタリング・効果分析)			①観光文化拠点としての機能を高めるため事業を追加 ②安全な市街地環境を創出するため事業を追加 ③安全な市街地環境を創出するため事業を追加 ④今後のまちづくりの方向性に関する検証を行うため追加			①福知山城公園来園者数の指標を新たに追加 ②影響なし ③影響なし ④影響なし					
交付期間の変更	当初変更	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	地区内土地未利用率	%	20	H17	10	H22	モニタリング	9.60	○	あり なし	魅力ある都市環境が整備されたことで、駅周辺の立地ポテンシャルが向上し、土地利用が促進された。	平成24年5月
	指標2	(新旧市街地の一人当たりの)避難地面積の地域間乖離度	-	0.77 (旧市街地を「1」とした場合の指数)	H17	1.18 (旧市街地を「1」とした場合の指数)	H22	モニタリング	1.42 (旧市街地を「1」とした場合の指数)	△	あり なし ○	駅南地区を中心とする新旧市街地の将来人口が、近年の傾向に比べ過大に設定されていたため、一人当たりの避難地面積が大きく乖離度が大きくなった。しかし、避難地の確保という観点からは、地域の防災環境は向上する。	平成24年5月
	指標3	地区内の走行時間短縮	分・秒	5分53秒	H17	4分30秒	H22	モニタリング	4分13秒	○	あり なし	駅を中心とした環状型の都市計画道路網と区画道路網等の整備により、自動車交通の流動性が向上した。	-
	指標4	福知山城公園来園者数	人/年	27,069	H17	27,500	H22	モニタリング	32,619	○	あり なし	福知山城公園周辺や都市の魅力向上に伴う来訪者数の増加、高速道路料金の改定、昨今の歴史ブーム等の相乗的な効果が、期待以上の来園者数に繋がった。	平成25年3月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	新旧市街地における一人当たり避難地面積	m ² /人	8.6	H17			モニタリング	18.5		あり なし	福知山駅南口公園や多目的防災広場等の整備により、新旧市街地における一人当たりの避難地面積が拡大する。	平成24年5月
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存建築物等の更新が進み、洗練された意匠の建築物と公共施設整備が一体となって整備されることで良好な都市景観が形成され、都市の魅力向上に繋がっている。 駅周辺における立地ポテンシャルの向上により、商業・業務施設を中心とした多様な都市機能が立地し、北近畿の中核都市にふさわしい賑わいのある都市環境が形成されつつある。 駅周辺の都市空間を活用した、地元商店街主催のイベント等が行われており、多様な人々の交流と賑わいが創出されている。 												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等						
	モニタリング	事業と指標の見直しに関するモニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ● ● 高次都市施設については、庁内検討会議において施設内容等を精査し、事業化に向け検討を進める。					
	住民参加プロセス	高次都市施設((仮称)北近畿の都センター)の見直し案に関するパブリック・コメント			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ● ● 庁内検討会議等において検討中の内容(高次都市施設の施設内容等)については、適宜市民に公表し、意見を募り、反映に努めていく。					
持続的なまちづくり体制の構築	地元商店街組織の活動支援			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ● ● イベントの開催や景観づくりなどの活動に対して、必要に応じて支援を行う。						

様式2-2 地区の概要

福知山駅周辺地区(京都府福知山市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：北近畿の商業・業務・文化の中心にふさわしい都心の創造 目標1：広域機能が集積する都心づくり ⇒ 「賑わい」の空間創造(土地利用に関する課題) 目標2：緑・水・歴史が息づく都心づくり ⇒ 「安らぎ」「安心」の環境形成(都市環境に関する課題) 目標3：交通便利性の高い都心づくり ⇒ 「便利さ」のネットワーク構築(交通施設に関する課題)	地区内土地未利用率	単位: %	20	H17	10	H22	9.6	H22
	避難地面積の地域間乖離度	単位: -	0.77	H17	1.18	H22	1.42	H22
	地区内の走行時間短縮	単位: 分・秒	5分53秒	H17	4分30秒	H22	4分13秒	H22
	福知山城公園来園者数	単位: 人/年	27,069	H17	27,500	H22	32,619	H22
	新市街地における一人当たり避難地面積	単位: m ² /人	8.6	H17	-	-	18.5	H22



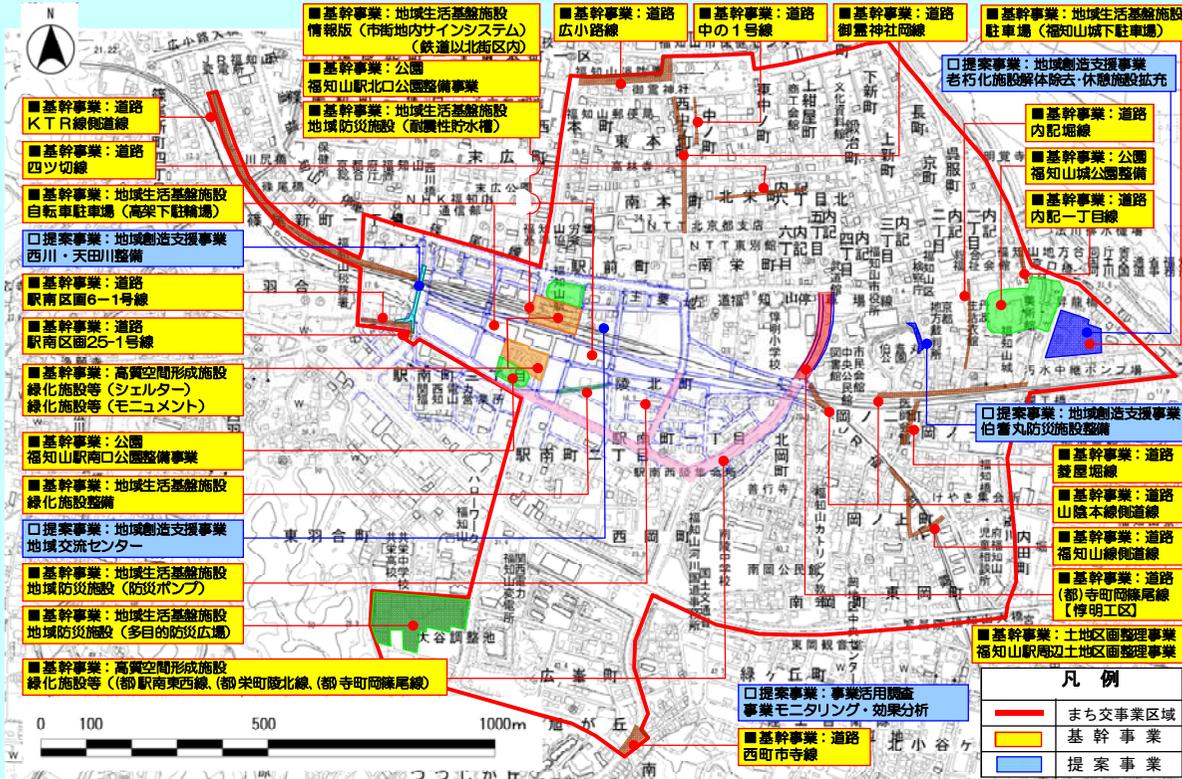
福知山駅南口公園



福知山駅南口公園内に設置された防火水槽



来訪者を誘導するサイン



駅南北を横断する都市計画道路



洗練された景観の都心エリア



駅に近接して立地する商業施設

まちの課題の変化	①本事業を含む福知山駅周辺での一連の事業により、魅力的な都市環境、洗練された都市景観が創出され、商業施設を中心とした都市機能の集積が進み、多くの来訪者が訪れている。更なる賑わいの創出に向けて、鉄道高架下の有効活用が必要である。 ②また、環状型の安全でわかりやすい道路ネットワークが整備され、駅南北の連絡を含む円滑な交通流動が確保されている。 ③このような環境が整いつつも、旧市街地(駅北エリア)の人口空洞化は、依然として歯止めがかからない状況である。 ④福知山城公園の環境整備や、歴史的雰囲気等の創出に配慮した周辺付帯施設の整備により、福知山城を核とした一帯の魅力が高まり、多くの来園者が訪れている。 ⑤福知山駅北口・南口公園や多目的防災広場の整備により、災害時における避難空間が拡充され、地域の総体的な防災環境は向上するが、その一方で、地域住民の防災に対する意識は十分とはいえない。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	①更なる都市機能の立地、交流の促進、良好な都市景観の維持・保全を図るため、民間主導のエリアマネジメント(イベントの企画や建築物の景観誘導、公共施設の維持・管理等)などの取組みに関する側面的な支援を行うと共に、人々の多様な交流の舞台となる地域交流センター(仮称「北近畿の都センター」)の事業化に向けた検討を進める。また、北口公園等のイベント活用に関するPRを強化し、賑わいと交流を創出する他、JRや民間との調整・連携を図りながら、高架下の有効活用を促進する。 ②安全・快適な交通ネットワークの持続に向けて、交通流動や自転車・歩行者の交通実態等をモニタリングしつつ、必要に応じて、交通規制や地域独自の交通ルールなどを導入する。 ③JR等と連携しながら、民間事業者等の誘致に努め、更なる土地利用の促進を図ると共に、旧市街地の人口空洞化の実態や要因を見極めつつ、定住人口の増加に向けた都心居住施策の具体的な検討や支援を行う。 ④「福知山観光ガイドの会」などの関連組織との連携を深めると共に、福知山城を舞台とした観光振興の取組み(ボランティアガイドの育成や福知山城を舞台としたイベントの活性化等)に関する側面的な支援を行う。 ⑤多目的防災広場と防災センターとの連携による防災訓練や啓発活動等の実施に関する側面的な支援を行い、防災に関する地域住民の意識と災害への対応力を高める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 ~~今後のまちづくり方策に関するその他の意見~~
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 ~~今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)~~

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		指標1 地区内土地未利用率 指標2 高次都市施設利用者数 指標3 都心部における交通渋滞の解消	指標1 地区内土地未利用率 指標2 避難地面積の地域間乖離度 指標3 地区内の走行時間短縮 指標4 福知山城公園来園者数	「高次都市施設利用者数」は、平成21年度の完成を目指していた高次都市施設(地域交流センター)の施設内容を抜本的に見直すこととなり、計画期間内の事業完了が困難となったため削除。 「避難地面積の地域間乖離度」は、地域の防災環境の向上に向けて、多目的防災広場等の事業を追加したことに伴い、新たに追加。 「都心部における交通渋滞の解消」は、モニタリングにおいて従前値(混雑度1.3)の算出根拠が不明瞭であることが判明したため、「地区内の走行時間短縮」に変更。 「福知山城公園来園者数」は、中心市街地の活性化に向けて、福知山城周辺一帯を観光文化拠点として整備するための事業を追加したことに伴い、新たに追加。
C. 目標値	●		—	「指標2 避難地面積の地域間乖離度」 1.18	モニタリングの実施により、新たに追加した指標の目標値を設定した。
			—	「指標3 地区内の走行時間短縮」 4分30秒	モニタリングの実施により、新たに追加した指標の目標値を設定した。
			—	「指標4 福知山城公園来園者数」 27,500人/年	新たに追加した指標の目標値を設定した。
D. その他(区域の拡大)	●		120ha	160ha	○120ha⇒130ha 認定計画に向けて、現在、見直し中の中心市街地活性化基本計画と一体となって、福知山城周辺一帯を観光文化拠点として整備(目標2:緑・水・歴史が息づく都心づくりの実現)するため区域を拡大。 ○130ha⇒160ha 地域の防災環境の向上(災害時の一人当たり避難地面積が新旧市街地間で乖離している事態の解消など)に向けて、都市防災総合推進事業で建設する防災センターの隣接地に多目的防災広場を整備するため区域を拡大。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(都)寺町岡篠尾線	930	L=200m	609	L=200m	移転対象物件の見直しや設計内容の精査等により事業費を減額	影響なし	●	(H23.3)
道路	山陰本線側道線(A・B号)	430	L=490m (ABC)	57	L=240m (AB)	福知山駅付近連続立体交差事業との事業調整に伴い、事業量を減らし、事業費を減額	地区内の走行時間短縮の指標に関係するが、他の要因による影響も大きいため、数値目標は据え置く。	●	(H23.3)
道路	福知山線側道線(A・C号)	600	L=720m (ABC)	205	L=370m (AC)	福知山駅付近連続立体交差事業との事業調整に伴い、事業量を減らし、事業費を減額	地区内の走行時間短縮の指標に関係するが、他の要因による影響も大きいため、数値目標は据え置く。	●	(H24.3)
道路	KTR線側道線(A・B・C号)	115	L=120m (A)	64	L=480m (ABC)	福知山駅付近連続立体交差事業との事業調整に伴い、事業費を減額 整備範囲の拡大により事業量が増加	地区内の走行時間短縮の指標に関係するが、他の要因による影響も大きいため、数値目標は据え置く。	●	(H24.3)
道路	内記一丁目線	0	—	110	L=80m	H20.3に計画変更して追加 福知山城周辺一帯の観光文化拠点としての機能を高めるため事業を追加	福知山城公園来園者数の指標を新たに追加。	●	(H24.3)
道路	駅南区画25-1号線	0	—	35	L=60m	H21.3に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	地区内の走行時間短縮の指標に関係するが、他の要因による影響も大きいため、数値目標は据え置く。	●	(H24.3)
道路	御霊神社岡線	0	—	10	L=290m	H21.3に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	影響なし	●	(H23.3)
道路	広小路線	0	—	10	L=180m	H21.3に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	影響なし	●	(H23.3)
道路	中の1号線	0	—	2	L=100m	H21.3に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	影響なし	●	
道路	四ツ切線	0	—	5	L=170m	H21.3に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	影響なし	●	(H23.3)
道路	内記堀線	0	—	3	L=120m	H21.3に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	影響なし	●	
道路	菱屋堀線	0	—	3	L=80m	H21.3に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	影響なし	●	(H23.3)
道路	駅南区画6-1号線	0	—	1	L=75m	H21.12に計画変更して追加 歩行者の安全性を確保するため、歩道の有効幅員を広げる事業を追加	地区内の走行時間短縮の指標に関係するが、他の要因による影響も大きいため、数値目標は据え置く。	●	(H23.3)
道路	西町市寺線	0	—	15	L=60m	H21.12に計画変更して追加 都心部における円滑な交通流動の向上を図るため事業を追加	影響なし	●	(H24.3)

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園	福知山駅北口公園	195	A=3,000㎡	145	A=2,988㎡	設計内容の精査等に伴い事業費を減額	影響なし	●	
公園	福知山駅南口公園	159	A=2,450㎡	109	A=2,367㎡	設計内容の精査等に伴い事業費を減額	影響なし	●	
公園	福知山城公園	0	—	6	A=18,000㎡	H20.3に計画変更して追加 福知山城周辺一帯の観光文化拠点としての機能を高めるため事業を追加	福知山城公園来園者数の指標を新たに追加。		● (H23.3)
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	緑地 (緑化施設整備)	0	—	41	A=600㎡	H21.12に計画変更して追加 良好な都市景観の形成を図るため緑道等の事業を追加	影響なし		● (H24.3)
地域生活基盤施設	駐車場 (二層駐車場)	200	A=6,200㎡ (二層駐車場)	0	—	H21.12に計画変更して削除 根幹の事業である地域交流センターの期間内の完成が困難となったため	高次都市施設利用者数の指標を削除。	—	—
地域生活基盤施設	駐車場 (高架下駐車場)	10	A=3,700㎡	0	—	H21.12に計画変更して削除 鉄道会社により高架下駐車場が整備されたため	影響なし	—	—
地域生活基盤施設	駐車場 (福知山城下駐車場)	0	—	5	A=3,200㎡	H20.3に計画変更して追加 福知山城周辺一帯の観光文化拠点としての機能を高めるため事業を追加	福知山城公園来園者数の指標を新たに追加。		● (H24.3)
地域生活基盤施設	自転車駐車場 (高架下駐輪場)	136	A=1,000㎡	127	A=1,000㎡	設計内容の精査等に伴い事業費を減額	影響なし	●	
地域生活基盤施設	情報版 (情報版)	26	12基	63	40基	駅利用者や観光客等の移動の利便性を向上させるため設置台数を増加	影響なし	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設 (耐震性貯水槽)	23	1基	14	1基	設計内容の精査等に伴い事業費を減額	影響なし	●	
地域生活基盤施設	地域防災施設 (防災ポンプ)	0	—	42	1基	H22.3に計画変更して追加 安全な市街地の形成を図るため内水処理対策に関する事業を追加	影響なし		● (H24.3)
地域生活基盤施設	地域防災施設 (多目的防災広場)	0	—	452	A=1.8ha	H21.12に計画変更して追加 地域の均衡ある防災環境を創出するため事業を追加	避難地面積の地域間乖離度の指標を新たに追加。		● (H24.3)
高質空間形成施設	緑化施設等 (緑化施設等)	266	L=820	188	L=1,020	設計内容の精査に伴い事業費を減額 良好な都市景観の形成を図るため対象路線を拡大	影響なし		● (H23.3)
高質空間形成施設	緑化施設等 (コミュニティ道路)	38	L=280m	0	—	H21.3に計画変更して削除 地域が進めるまちづくりとの調整が困難となったため事業を削除	影響なし	—	—
高質空間形成施設	緑化施設等 (モニュメント)	0	—	74	3箇所	H19.3に計画変更して追加 駅周辺のシンボル性を高めるため事業を追加	影響なし	●	
高質空間形成施設	歩行支援施設、障害者誘導施設等 (シエルトー)	708	A=1,770㎡	327	A=1,770㎡	構造や設計内容等の精査に伴い事業費を減額	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高次都市施設	地域交流センター	969	1式	0		H21.12に計画変更して削除 施設内容の見直しにより期間内の完 成が困難となったため事業を削除	高次都市施設利用者数の指標を削除。	—	—
既存建造物活 用事業									
都市再生交通 拠点整備事業									
土地区画整理 事業(都市再 生)	福知山駅周辺地区	908	1式	804	1式	事業内容、資金計画の精査に伴い事 業費を減額	影響なし		● (H24.3)
住宅市街地 総合整備事業									
地区再開発事 業									
バリアフリー環 境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		基準年度						あり	なし		
指標1	地区内土地未利用率	%	資料調査や現地踏査等から、平成22年7月1日時点における都心エリア(福知山駅を中心とした約30haのエリア)の未利用地を把握し、その割合を図上で計測して評価値とした。	-	-	20	H17	10	H22	モニタリング	H21	14.6	モニタリング	△		
										事後評価	確定 見込み ●	9.6	事後評価	○		
指標2	避難地面積の地域間乖離度 (新旧市街地の一人当たりの避難面積の乖離度を数値化するもので、旧市街地を「1」とした場合の指数で表示)	-	都市再生整備計画の区域のうち、旧市街地(主に駅北エリア)と新市街地(主に駅南エリア)のそれぞれについて、避難地面積と評価基準日のエリア内人口(平成22年3月末日時点の住民基本台帳と過去5年間の傾向から推計)から、一人当たりの避難地面積を算定し、その乖離度を求めた。	-	-	0.77	H17	1.18	H22	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	1.42	事後評価	△		
指標3	地区内の走行時間短縮	分・秒	JR福知山駅を隔てた南北それぞれの所定の地点を結ぶ西回りと東周りの2つのルートを実際に自動車で行き、その所要時間の平均値を求めて評価値とした。	-	-	5分53秒	H17	4分30秒	H22	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	4分13秒	事後評価	○		
指標4	福知山城公園来園者数	人/年	事業報告書により公表される郷土資料館(福知山城)と美術館の来園者数より求める。 平成17年から平成21年までの5年間の傾向から平成22年の来園者数を推計し、評価値とした。	30,237	H13	27,069	H17	27,500	H22	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	32,619	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	北近畿の中核都市にふさわしい魅力ある都市環境が整備されたことで、駅周辺の立地ポテンシャルが向上し、土地利用が促進されたと考えられる。商業施設を中心に、比較的大規模な土地利用が展開されており、都市の魅力を高めている。	
指標2	人口増加率が最も激しい時期のデータを用いた為、新市街地の将来人口が過大設定され目標値のトレンド推計に大きな影響を与えた。人口増加は沈静化している一方、新たな避難地が整備されたことで新市街地における一人当たりの避難地面積が拡大しており、目標値に比べて乖離度が著しく逆転する結果となった。しかし、避難地の確保という観点からは、地区の避難地面積が増加しており、地域の防災環境は向上する。	計測範囲を都市再生整備計画区域に限定したが、当該区域周辺における外延的な人口変動が見受けられる。 乖離度の著しい逆転は計測上の課題であり、地域の防災環境は向上することから、その他の数値指標を設定し、当該指標を補完する。
指標3	駅を中心とした環状型の都市計画道路網とこれらを補完する区画道路網等の整備により、都市の円滑な交通ネットワークが形成され、自動車交通の流動性が向上したと考えられる。	
指標4	福知山城公園を中心とした周辺一帯の環境整備による歴史的魅力の向上や、北近畿の中核都市としての魅力向上に伴う来訪者数の増加が、福知山城公園来園者数の増加に影響しているものと考えられる。この他、昨今の歴史ブームや大河ドラマなどの相乗的な影響が、期待以上の来園者数に繋がっているものと考えられる。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度			基準年度						
その他の数値指標1	新市街地における一人当たり避難地面積	㎡/人	1.4	H12	8.6	H17	モニタリング			18.5	指標2「避難地面積の地域間乖離度」を補完する指標として、新市街地における防災環境の向上を説明する。	-
							事後評価	確定				
その他の数値指標2							モニタリング					
							事後評価	確定				
その他の数値指標3							モニタリング					
							事後評価	確定				

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・既存建築物等の更新が進み、洗練された意匠の建築物と公共施設整備が一体となって整備されることで良好な都市景観が形成され、都市の魅力向上に繋がっている。
 ・駅周辺における立地ポテンシャルの向上により、商業・業務施設を中心とした多様な都市機能が立地し、北近畿の中核都市にふさわしい賑わいのある都市環境が形成されつつある。
 ・駅周辺の都市空間を活用した、地元商店街主催のイベント等が行われており、多様な人々の交流と賑わいが創出されている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
事業と指標の見直しに関するモニタリング	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成21年9月 【実施結果】施設内容の抜本的な見直しが必要となり、計画期間内での事業完了が困難となった為、「高次都市施設」を削除し、これに関連する指標「高次都市施設利用者数」も削除した。また、駅を隔てた南北市街地の防災環境が乖離していることを鑑み、駅南市街地で具体の事業を展開するために区域を拡大し、新たな指標として「避難地面積の地域間乖離度」を追加した。	平成22年度以降は、庁内検討会議において施設内容等を精査し、事業化に向け検討を進める。 庁内検討会議等において検討中の内容については、適宜市民に公表し、意見を募り、反映に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
高次都市施設((仮称)北近畿の都センター)の見直し案に関するパブリック・コメント	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成20年10月15日～平成20年11月7日 【実施結果】施設内容や機能の配置に関するものなど265件の意見が寄せられた。この結果を踏まえ、高次都市施設の整備を一時凍結。平成21年度、さらに市民の意見を聞くため、「市民検討会議」を立ち上げ、検討結果を市長に報告	平成22年度以降は、庁内検討会議において施設内容等を精査し、事業化に向け検討を進める。 庁内検討会議等において検討中の内容については、適宜市民に公表し、意見を募り、反映に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
まちづくり交付金事業に関するアンケート調査	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成21年9月 【実施結果】本事業に関する評価や、今後のまちづくりの方向性・具体策に関する意見を集約し、都市再生整備計画の変更に反映した。	必要に応じて市民意向を把握し、今後のまちづくりに反映していくものとする。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
地元商店街組織の活動支援	予定どおり実施した	● ・市主催のイベント等とのタイアップ ・商店街独自のイベントやオリジナル商品の開発に関する協力	福知山駅前商店街振興組合(構成員28店、28名)	イベントの開催や景観づくりなどの活動に対して、必要に応じて支援を行う。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討会 (庁内の横断的な組織)	福知山駅周辺整備課、都市計画課、企画推進課、 財政課、土木課、商工振興課、消防本部	平成22年10月14日	福知山駅周辺整備課 都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標1		指標3		指標4		その他の数値指標1		
		指標の種別 指標名	指標1 地区内土地未利用率	指標3 地区内の走行時間短縮	指標4 福知山城公園来園者数	その他の数値指標1 新市街地における一人当たり避難面積				
基幹事業	道路((都)寺町岡篠尾線)	◎	・本事業を含む福知山駅周辺で一連の事業により、南北市街地の一体化、駅周辺の大区画、良好な都市景観の創出、防災性・利便性の向上など、魅力ある都市環境が整備されたことで駅周辺での立地ポテンシャルが飛躍的に向上し、都心エリア内の土地利用が促進されたと考えられる。 ・商業施設を中心に、比較的大規模な土地利用が展開されており、都市の魅力を高めている。	◎	・駅を中心とした環状型の都市計画道路網とこれらを補完する区画道路網等の整備により、都市の円滑な交通ネットワークが形成され、自動車交通の流動性が向上したと考えられる。 ・特に駅を隔てた南北間の連絡性が飛躍的に向上し、南北市街地の均衡ある発展に繋がっている。	◎	・福知山城公園を中心とした周辺一帯の環境整備による歴史的魅力の向上や、北近畿の中核都市としての魅力向上に伴う来訪者数の増加が、福知山城公園来園者数の増加に影響しているものと考えられる。 ・この他、高速道路料金改定による来訪者の増加、昨今の歴史ブームや大河ドラマなどの相乗的な影響が、期待以上の来園者数に繋がっているものと考えられる。	◎	・既存の避難空間に加え、福知山駅南口公園や多目的防災広場等の整備により、新市街地における一人当たりの避難面積が拡大する。	
	道路(山陰本線側道線(A・B号))	○		◎		◎				◎
	道路(福知山線側道線(A・C号))	○		◎		◎				◎
	道路(KTR線側道線(A・B・C号))	◎		◎		◎				◎
	道路(内記一丁目線)	◎		◎		◎				◎
	道路(駅南区画25-1号線)	◎		◎		◎				◎
	道路(御霊神社岡線)	○		◎		◎				◎
	道路(広小路線)	○		◎		◎				◎
	道路(中の1号線)	○		◎		◎				◎
	道路(四ッ切線)	○		◎		◎				◎
	道路(内記線)	○		◎		◎				◎
	道路(菱屋堀線)	○		◎		◎				◎
	道路(駅南区画6-1号線)	◎		◎		◎				◎
	道路(西町市寺線)	○		◎		◎				◎
	公園(福知山駅北口公園)	○		◎		◎				◎
	公園(福知山駅南口公園)	○		◎		◎				◎
	公園(福知山城公園)	○		◎		◎				◎
	地域生活基盤施設(緑地:緑化施設整備)	○		◎		◎				◎
	地域生活基盤施設(駐車場:福知山地下駐車場)	○		◎		◎				◎
	地域生活基盤施設(自転車駐車場:高架下駐輪場)	○		◎		◎				◎
	地域生活基盤施設(情報版:情報版)	○		◎		◎				◎
地域生活基盤施設(地域防災施設:耐震性貯水槽)	○	◎	◎	◎						
地域生活基盤施設(地域防災施設:防災ポンプ)	○	◎	◎	◎						
地域生活基盤施設(地域防災施設:多目的防災広場)	○	◎	◎	◎						
高質空間形成施設(緑化施設等:緑化施設)	○	◎	◎	◎						
高質空間形成施設(緑化施設等:モニュメント)	○	◎	◎	◎						
高質空間形成施設(歩行支線施設、障害者誘導施設等:シェルター)	○	◎	◎	◎						
高次都市施設(地域交流センター)	△	◎	◎	◎						
土地区画整理事業(福知山駅周辺地区)	◎	◎	◎	◎						
提案事業	地域創造支援事業(地域交流センター)	△	◎	◎	◎					
	地域創造支援事業(老朽化施設解体除却・休憩施設拡充)	○	◎	◎	◎					
	地域創造支援事業(西川・天田川整備)	○	◎	◎	◎					
	地域創造支援事業(伯耆丸防災施設整備)	○	◎	◎	◎					
関連事業	事業活用調査(事業モニタリング・効果分析)	○	◎	◎	◎					
	福知山駅周辺土地区画整理事業 福知山駅付近連続立体交差事業	◎	◎	◎	◎					

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標3	指標4	その他の数値指標1
・JR等の土地所有者と連携しながら、民間事業者等の誘致に努め、更なる土地利用の促進を図る。	◎	◎	◎	◎
・特に、駅周辺における交通流や自転車・歩行者の交通実態等をモニタリングしつつ、必要に応じて、交通規制や地域独自の交通ルールなどを導入する。	◎	◎	◎	◎
・福知山市の観光の名所として、その謂れや歴史などを積極的にPRする。 ・福知山城公園を舞台とした各種イベント等との連携により、来園者の更なる増加を目指す。	◎	◎	◎	◎
・地域住民を主体とした防災拠点の維持・管理活動を促進し、防災に関する意識の高揚を図る。	◎	◎	◎	◎

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2												
指標名		避難地面積の地域間乖離度												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	道路((都)寺町御篠尾線)	-	人口増加率が最も激しい時期のデータを用いた為、新市街地の将来人口が過大設定され	IV	-			-			-			
	道路(山陰本線側道線(A・B号))	-	目標値のトレンド推計に大きな影響を与えた。		-			-			-			
	道路(福知山線側道線(A・C号))	-	人口増加は沈静化している一方、新たな避難地が整備されたことで新市街地における一人当たりの避難地面積が拡大しており、目標値に比べて乖離度が著しく逆転する結果となった。		-			-			-			
	道路(KTR線側道線(A・B・C号))	-	しかし、避難地の確保という観点からは、地区の避難地面積が増加しており、地域の防災環境は向上する。		-			-			-			
	道路(内記一丁目線)	-			-			-			-			
	道路(駅南区画25-1号線)	-			-			-			-			
	道路(御霊神社岡線)	-			-			-			-			
	道路(広小路線)	-			-			-			-			
	道路(中の1号線)	-			-			-			-			
	道路(四ツ切線)	-			-			-			-			
	道路(内記堀線)	-			-			-			-			
	道路(霧屋堀線)	-			-			-			-			
	道路(駅南区画6-1号線)	-			-			-			-			
	道路(西町市寺線)	-			-			-			-			
	公園(福知山駅北口公園)	△			-			-			-			
	公園(福知山駅南口公園)	△			-			-			-			
	公園(福知山城公園)	△			-			-			-			
	地域生活基盤施設(緑地・緑化施設整備)	-			-			-			-			
	地域生活基盤施設(駐車場:福知山城下駐車場)	-			-			-			-			
	地域生活基盤施設(自転車駐車場:高架下駐輪場)	-			-			-			-			
	地域生活基盤施設(情報版:情報版)	-			-			-			-			
	地域生活基盤施設(地域防災施設:耐震性貯水槽)	-			-			-			-			
	地域生活基盤施設(地域防災施設:防災ポンプ)	-			-			-			-			
地域生活基盤施設(地域防災施設:多目的防災広場)	△		-			-			-					
高質空間形成施設(緑化施設等:緑化施設)	-		-			-			-					
高質空間形成施設(緑化施設等:モニュメント)	-		-			-			-					
高質空間形成施設(歩行支援施設:障害者誘導施設等:シェルター)	-		-			-			-					
高次都市施設(地域交流センター)	-		-			-			-					
土地区画整理事業(福知山駅周辺地区)	-		-			-			-					
提案事業	地域創造支援事業(地域交流センター)	-				-			-					
	地域創造支援事業(老朽化施設解体除却・休憩施設拡充)	-				-			-					
	地域創造支援事業(西川・天田川整備)	-				-			-					
	地域創造支援事業(伯耆丸防災施設整備)	-				-			-					
関連事業	事業活用調査(事業モニタリング・効果分析)	△				-			-					
	福知山駅周辺土地区画整理事業	-				-			-					
	福知山駅付近連続立体交差事業	-				-			-					

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	・多目的防災広場と防災センターとの連携による防災訓練や啓発活動等の実施に関する側面的な支援を行い、防災に関する地域住民の意識と災害への対応力を高める。
------------------	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討会 (庁内の横断的な組織)	福知山駅周辺整備課、都市計画課、企画推進課、財政課、土木課、商工振興課、消防本部	平成22年10月14日	福知山駅周辺整備課 都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
『賑わい』の空間創造 北近畿の中核都市の玄関口 にふさわしい交流拠点の創造	・本事業を含む福知山駅周辺での一連の事業による魅力的な都市環境の創出により、商業施設を中心とした様々な都市機能の集積が進み、多くの来訪者が訪れている。駅南北に広場や公園などの空間が整備され、日常的な交流の空間として機能している。	・駅周辺部での都市機能の立地は進むものの、依然として駅北エリアを中心とする旧市街地の人口空洞化に歯止めがかからない。 ・市民や地域住民の日常的な交流の舞台となる地域交流センター((仮称)北近畿の都センター)の建設が、施設内容の見直しを理由に遅れている。 ・賑わい創出に向けて、鉄道高架下の有効活用が不十分である。	-
『賑わい』の空間創造 福知山城を核とした観光文化 拠点の創造	・福知山城公園の環境整備や、歴史的雰囲気創出に配慮した周辺付帯施設の整備により、福知山城を核とした一帯の魅力が高まり、多くの来園者が訪れている。	-	
『安らぎ』、『安心』の環境形成 都心にふさわしい都市景観の 創出と、安心して生活できる環 境の整備	・公共施設の修景整備や「福知山駅周辺・駅南地区 地区計画」に即した建築物等の整備により、北近畿の中核都市の玄関口にふさわしい洗練された良好な都市景観が創出されている。 ・福知山駅北口・南口公園や多目的防災広場の整備により、災害時における避難空間が拡充され、地域の総合的な防災環境が向上する。	・ハード面における安全・安心な市街地環境は整ったものの、地域住民の防災に対する意識や災害対応力が不十分。	
『便利さ』のネットワーク構築 都心部における円滑な交通 ネットワークの確保	・本事業を含む福知山駅周辺での一連の事業により、環状型の安全でわかりやすい道路ネットワークが整備され、駅南北の連絡を含む円滑な交通流動が確保されている。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	北近畿の中核都市の玄関口にふさわしい交流拠点の創造	・駅周辺部の総合的な魅力を高める民間主導のエリアマネジメント(イベントの企画や建築物の景観誘導、公共施設の維持・管理等)などの導入に関する側面的な支援を行い、更なる都市機能の立地促進を図る。 ・JR等の土地所有者と連携しながら、民間事業者等の誘致に努め、更なる土地利用の促進を図る。 ・北口公園等のイベント活用に関するPRを強化し、賑わいと交流を創出する。	・エリアマネジメント導入・運営支援 ・土地の高度利用に向けたJR等の土地所有者との連携促進 ・イベント活用に関するPR活動
	福知山城を核とした観光文化拠点の創造	・「福知山観光ガイドの会」などの関連組織との連携を深めると共に、福知山城を舞台とした観光振興の取組み(ボランティアガイドの育成や福知山城を舞台としたイベントの活性化等)に関する側面的な支援を行う。	・観光ボランティア養成講座の開催 ・イベント活性化支援
	都心にふさわしい都市景観の創出と、安心して生活できる環境の整備	・駅周辺部の総合的な魅力を高める民間主導のエリアマネジメント等の導入に関する側面的な支援を行い、良好な都市景観への誘導、維持・保全を図る。 ・地域における防災活動などの取組みを側面的に支援し、防災に関する地域住民の意識と災害への対応力を高める。	・まちづくり会社によるテナントミックス事業 ・エリアマネジメント導入・運営支援 ・地域防災活動に関する運営・支援
	都心部における円滑な交通ネットワークの確保	・特に、駅周辺部における交通流動や自転車・歩行者の交通実態等をモニタリングしつつ、必要に応じて、交通規制や地域独自の交通ルールなどを導入する。	・有効な交通規制や交通ルール等に関する検討

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	福知山駅を中心とした都心部における賑わいと交流の創出	・人口空洞化の実態や要因を見極めつつ、定住人口の増加に向けた都心居住施策の具体的な検討を行う。 ・地域交流センター((仮称)北近畿の都センター)については、平成22年度以降、庁内検討会議において施設内容等を精査し、事業化に向け検討を進める。 ・駅周辺の賑わいを創出する為、JRや民間との調整・連携を図りながら、高架下の有効活用を促進する。	・都心居住施策の具体的な方策に関する検討 ・都心居住に関する助成・支援 ・地域交流センターの整備 ・高架下の有効活用に向けたJRや民間との調整・連携
	地域住民の防災意識の啓発	・多目的防災広場と防災センターとの連携による防災訓練や啓発活動等の実施に関する側面的な支援を行い、防災に関する地域住民の意識と災害への対応力を高める。	・地域防災活動に関する運営・支援

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地区内土地未利用地率	%	20.0	H17	10.0	H22	確定	9.6	○	あり	→	平成24年5月	都心エリア内の未利用地を資料調査や現地踏査等から把握し、その割合を求めて確定値とする。	-
							見込み ●			なし				
指標2	避難地面積の地期間乖離度	-	0.77	H17	1.18	H22	確定	1.42	△	あり	→	平成24年5月	新旧市街地各々の避難地面積とエリア内人口から、一人当たりの避難地面積を算定し、その乖離度を求め、確定値とする。	-
							見込み ●			なし ●				
指標3	地区内の走行時間短縮	分・秒	5分53秒	H17	4分30秒	H22	確定 ●	4分13秒	○	あり	→	-	-	-
							見込み			なし				
指標4	福知山城公園来園者数	人/年	27,069	H17	27,500	H22	確定 ●	32,619	○	あり	→	平成25年3月	平成25年3月の事務報告書で公表される平成24年の郷土資料館と美術館の年間来館者数を確定値とする。	-
							見込み ●			なし				
指標5						H22	確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標1	新市街地における一人当たり避難地面積	m ² /人	8.6	H17			確定 ●	18.5			→	平成24年5月	新市街地(主に駅南エリア)の避難地面積とエリア内人口から、一人当たりの避難地面積を算定し、確定値とする。	-
その他の数値指標2							確定				→			
その他の数値指標3							確定				→			
							見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、適切な指標や数値目標に変更することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中の地域の実態や社会経済情勢の変化を踏まえてモニタリングを実施することは、効果的な事業を展開する上で、有効である。 ・既存の資料を用いて目標値を設定する場合でも、最新のトレンド等を確認し、必要に応じて補正することが必要である。
	うまくいかなかった点	福知山城公園来園者数については、別途算出された将来推計より目標値を設定したが、実際のトレンドは、これを大きく上回っており、目標値と評価値の間に大きな乖離が生じた。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	地域の実情を踏まえつつ整備計画の変更を重ねたことで、目標と整合した効果的な事業の追加や削除、指標の追加・変更を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中においては、地域の実情を把握しつつ、必要に応じて整備計画の変更を行うことが有効である。 ・事後評価に向けて従前値の算出方法の記録を保管しておくことが必要である。
	うまくいかなかった点	都市内交通に関する指標として、当初「都心部における交通渋滞の解消」を掲げていたが、従前値の算出根拠が不明瞭であった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	北近畿の都センター(地域交流センター)については、市民の意見を聞くため、パブリックコメントを実施したことや、市民検討会議で検討していただき検討結果の報告を受けた。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民検討会議での検討結果を基本に、庁内検討会議において、事業化に向け検討を進める。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	モニタリング時に実施した事業効果に関するアンケート調査の結果より、問題点や課題等を把握し、これを都市再生整備計画に反映した。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の目線で見えた事業の効果を検証する上で、アンケート調査等は、特に有効である。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年10月20日～11月4日	平成22年10月20日～11月5日	担当課への電話、 FAX、郵送、電子メール等	福知山駅周辺整備課 都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に、市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表する旨を掲載	平成22年10月1日発行 広報ふくちやま10月1日号	平成22年10月20日～11月5日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	福知山駅周辺整備課、都市計画課窓口での閲覧	平成22年10月20日～11月4日	平成22年10月20日～11月5日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	滋野 浩毅 成美大学経営情報学部助教(委員長)	平成22年11月25日	福知山駅周辺整備課 都市計画課	福知山市福知山駅周辺 地区評価委員会設置要 綱の制定による設置	独自に設置
その他の委員	佐伯 正一 関西アーバン銀行福知山支店長 駿河 経敏 福知山駅周辺土地区画整理審議会会長 藤井 忠夫 藤井不動産鑑定株式会社 不動産鑑定士 和久 明 福知山商工会議所専務理事				

審議事項※1	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
成果の評価	・評価結果については、了承された。 ・舞鶴若狭自動車道の無料化社会実験に伴い市街地内の交通量が増加しており、今後このような状況が継続した場合、地区内の走行時間短縮に影響するのではないかと意見があったが、駅周辺の都市計画道路等は、余裕のある規格となっており、問題はないということで了承された。
実施過程の評価	・実施過程については適正であると確認された。 ・高次都市施設(地域交流センター)の建設是非について、民意を反映して検討中というのは理解できるが、広域的な都市機能であるため政策としての方針を示すことも重要との意見があった。
効果発現要因の整理	・福知山城公園来園者数は、舞鶴若狭自動車道の無料化社会実験や高速バスによる影響(来訪者の増加)も大きいとの意見があった。
事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は市民に対して適正に公表されたことが確認された。
その他	・特になし。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	
今後のまちづくり方策の作成	・商業店舗の誘致など、高架下の有効活用を図り、にぎわい、活力を創出していくことが必要との意見があった。 ・北口公園のイベント活用を促進するため、活用に向けたPR活動を積極的に行うべきであるとの意見があった。 ・北口広場のロータリーについては、出入口がわかりづらい等の問題があるため、交通結節点として、自動車に配慮した環境改善が必要であるとの意見があった。 ・エリアマネジメントの実施に向けて、庁内、地元、民間との調整を進め協働のもとに実施すべきであるとの意見があった。 ・防災・減災に向けては、ハード施策だけでなく、関連部署や地元住民との連携が必要であるとの意見があった。 ・福知山城公園については、来訪者をもてなす環境づくりを早急に進めるべきであるとの意見に対し、今後取組んでいく予定であることを確認した。
フォローアップ	・フォローアップについては妥当であると認められた。
その他	・特になし。
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第5回変更)

ふくち やま えき しゅう へん ち く
福知山駅周辺地区

きょうとふ ふくち やまし
京都府 福知山市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	京都府	市町村名	福知山市	地区名	福知山駅周辺地区	面積	160 ha
-------	-----	------	------	-----	----------	----	--------

計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標 大目標：北近畿の商業・業務・文化の中心にふさわしい都心の創造 目標1：広域機能が集積する都心づくり ⇒ 「賑わい」の空間創造(土地利用に関する課題) 目標2：緑・水・歴史が息づく都心づくり ⇒ 「安らぎ」「安心」の環境形成(都市環境に関する課題) 目標3：交通便利性の高い都心づくり ⇒ 「便利さ」のネットワーク構築(交通施設に関する課題)

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>本地区は福知山城の城下町として栄えた市の中心部に位置し、既存市街地には新町・広小路・アオイ通を中心とした古くからの商店街と、駅直近部の商業・業務地区を含む中心市街地がある。また、本地区の中心部にはJR福知山駅・KTR(北近畿タンゴ鉄道)福知山駅やバスターミナルがあり、交通の要衝としてその役割を担っているところであるが、広大な平面鉄道により市街地は南北に分断され、南北間の市街地の状況は著しく異なっている。こうした状況のもと、本地区を“魅力ある北近畿の中核都市”の玄関口にふさわしい都心地区として都市機能を集積させるため、福知山駅付近連続立体交差事業や福知山駅周辺土地区画整理事業、両事業に関連する街路事業等の都市基盤整備事業を鋭意推し進めてきたところである。</p> <p>本事業では、こうした都市基盤整備事業と併せ、既存市街地の商業・業務機能や本市のみならず近隣市町も視野に入れた広域拠点機能等の多種多様な都市機能を有機的に複合させ、賑わいの交流拠点を創造するとともに、安心・安全のまちづくりを推進し、豊かな生活環境の構築に努めるものである。また、歩行者の安全確保や景観向上を図るための駐輪場、災害時の避難地としての機能を担う公園並びに防災広場についても本事業で積極的に整備を進め、“21世紀にはばたく北近畿の都「福・知・山」”のまちづくり事業を推進する。</p>
--

課題 <土地利用に関する課題> ⇒ 『賑わい』の空間創造 ・北近畿の中核都市の玄関口にふさわしい交流拠点 「都心エリア」の創造(市街地の中心核の形成と立地条件を活かした産業系土地利用の誘導、都心核内に配置する北口広場、南口広場、福知山駅北口公園、福知山駅南口公園における必要機能の導入) ・都市機能の集積(広域的機能が集積する都心づくり) ・福知山城を核とした観光文化拠点(城公園整備、福知山城下で駐車施設の拡充) <都市環境に関する課題> ⇒ 『安らぎ』『安心』の環境形成 ・広域利用を目的とした都市景観の形成(基盤施設整備におけるグレードアップ) ・都心にふさわしい機能性の創出(オープンスペースの適正配置とネットワーク網の構築、街なかにおける駐輪場の確保) ・福知山城周辺の歴史景観を保全(老朽化施設の解体・除却、歩道橋架け替え) <交通施設に関する課題> ⇒ 『便利さ』のネットワーク構築 ・駅環状道路の必要性(都市核と周辺地区とのネットワークの形成、(都)寺町岡篠尾線の整備による交通ネットワークの確立) ・駅環状道路におけるプロムナード機能の導入(駅環状道路((都)駅南東西線歩道等のグレードアップによる歩行者ネットワークの確立)におけるプロムナード機能の導入) ・土地利用と整合した地区内道路網の構築(計画的な街区の形成と既存建築物の存続を考慮した生活道路の再編)

将来ビジョン(中長期) 交通便利性が高く、広域機能が集積し、緑・水・歴史が息づく都心づくり ・今後は更なる新しい商業・業務機能、教育・文化機能などの都市機能を集積、調和し、周辺市町の広域的地域社会の中心地として役割を担う。 ・緑の景観軸としてプロムナード(歩行者動線の確保)の形成を図り、自然と歴史が根づいたまちづくりを目指す。 ・福知山駅付近連続立体交差事業や福知山駅周辺土地区画整理事業の推進に合わせた利便性の高い交通結節拠点の形成を図り、また駅環状ネットワークや周辺部からのアクセス道路を確立することによって、駅南北の一体的な発展と都心地区へのアクセシビリティ向上及び交通流動の円滑化を図る。 ・商業施設の再集積(商店密度の向上)による買い物客への利便性・アメニティ性の向上を図る。また、商店街の賑やかさの再生を目指した空き店舗・空き地等の活用による集客施設の整備を行う。

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		目標年度
					基準年度			
①地区内土地未利用地率	%	地区内の宅地の内、未利用の土地割合	事業の実施にともなう基盤整備と計画的な街区形成により、各種土地利用の誘導をはかり、未利用の有効利用を図る。	約20% (都心エリア30ha内)	H17	約10% (都心エリア30ha内)	H22	
②避難地面積の地域間乖離度	乖離度	一人当たり避難地面積の人口過増・過減地域間の乖離度	人口動態の変化により、今後より増大すると見込まれる一人あたり避難地面積の地域間格差を解消して、その乖離を軽減する。	0.77 人口過増地域/人口過減地域	H17	1.18 人口過増地域/人口過減地域	H22	
③地区内の走行時間短縮	時間	南北市街地間の走行時間	駅周辺地区の交通便利性の向上を図るため、主要幹線道路等の整備により南北市街地間の走行時間の短縮を目指す。	5分53秒 (2ルート平均値)	H17	4分30秒 (2ルート平均値)	H22	
④福知山城公園来園者数	人/年	郷土資料館(福知山城)、美術館の来館者数	減少傾向にある公園内の2施設の来館者数を増加させる。	27,069人/年	H17	27,500人/年	H22	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>《整備方針1:「賑わい」の空間創造 ……指標①、④に対応するもの》</p> <p>新しい商業・業務機能並びに都市機能を集積、調和し、周辺市町の広域的な地域社会の中心地としての役割を担った賑わいのあるまちづくりを進める。同時に城下町という歴史的資源を活かした観光拠点としての賑わい創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな都心機能の充足 ・魅力ある商業集積の形成 ・福知山城周辺の魅力増強 ・公共公益施設等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山駅北口公園、福知山駅南口公園の整備：公園（基幹事業）、モニュメント設置／高質空間形成施設（基幹事業） ・地域交流センター：地域創造支援事業（提案事業） ・福知山城公園の整備：公園（基幹事業）、城下の駐車施設拡充：地域生活基盤施設（基幹事業） ・事業モニタリング・効果分析：事業活用調査（提案事業）
<p>《整備方針2:「安らぎ」「安心」の環境形成 ……指標②、④に対応するもの》</p> <p>福知山市の歴史と伝統文化、これらに美しい山並みや由良川の流れ等の自然特徴を活かした都心核の空間造りに取組むとともに、緑の景観軸としてプロムナード（歩行者動線の確保）の形成を図り、自然と歴史が根づいたまちづくりを進めていく。また、災害時の避難地としての機能も有する都市公園と多目的防災広場を整備するとともに、地域防災施設としての耐震性貯水槽を設置し、安心して生活できる環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人と人」、「人とまち」の交流・ふれあいの場の提供 ・憩いの場、健康を支援する場の整備 ・歴史公園に相応しい景観の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)駅南東西線及び(都)栄町陵北線歩道、(都)寺町岡篠尾線の緑化施設等：高質空間形成施設／緑化施設等（基幹事業） ・南北駅前広場内シェルター等：高質空間形成施設／緑化施設等（基幹事業） ・駅周辺地区内街路のグレードアップ：高質空間形成施設／緑化施設等（基幹事業） ・福知山駅北口公園・福知山駅南口公園・福知山城公園の整備：公園（基幹事業）、モニュメント設置／高質空間形成施設（基幹事業） ・地域防災施設（耐震性貯水槽、防災ポンプ）：地域生活基盤施設（基幹事業） ・内記一丁目線（歩道橋）：道路（基幹事業）、老朽化施設解体除去・休憩施設拡充：地域創造支援事業（提案事業） ・西川・天田川整備、伯耆丸防災施設整備：地域創造支援事業（提案事業） ・多目的防災広場整備、緑化施設整備：地域生活基盤施設（基幹事業）
<p>《整備方針3:「便利さ」に満ちた都心の創造 ……指標③に対応するもの》</p> <p>福知山駅付近連続立体交差事業や福知山駅周辺土地区画整理事業の推進に合わせた利便性の高い交通結節拠点の形成を図る。また、駅環状ネットワークを確立することによって、駅南北の一体的な発展と都心地区へのアクセス性向上、および交通流動の円滑化を図ることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通施設、道路ネットワークの向上（駅周辺環状道路、駅付近連続立体交差事業等） ・快適で回遊性の高い歩行者ネットワークの整備 ・来訪者の利便向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)寺町岡篠尾線(惇明工区)：道路（基幹事業） ・山陰本線側道線（A・B号）：道路（基幹事業） ・福知山線側道線（A・C号）：道路（基幹事業） ・KTR線側道線（A・B・C号）：道路（基幹事業） ・高架下駐輪場：地域生活基盤施設（基幹事業） ・情報板：地域生活基盤施設（基幹事業） ・駅南区画25-1号線、駅南区画6-1号線、西町市寺線：道路（基幹事業） ・御霊神社岡線、広小路線、中の1号線、四ツ切線、内記堀線、菱屋堀線：道路（基幹事業）
<p>その他</p> <p>○中長期的計画を踏まえた継続的なまちづくり活動 当地区では、商業者(民間)・福知山商工会議所・福知山市の3者が一体となった中心市街地のまちづくりを推進するため、まちづくり会社が設置されている。今後の継続的なまちづくりの推進においては、当該機関を中心として、関係者の合意形成や具体的な事業計画の企画立案を推進していく。また、まちづくり活動に対する市民、事業者への啓発活動を積極的に行う。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な成果をあげるため、毎年事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。</p>	

